

地下水バイパス実証試験について

平成24年12月25日

東京電力株式会社



東京電力

地下水バイパスの揚水試験について

地下水バイパスのパイロット揚水井（最初に作製する2本の揚水井）が12月上旬に掘削完了し、準備が整ったため実証試験を12月14日に開始した。

実証試験では、揚水試験と水質確認試験を実施する。

■揚水試験の方法

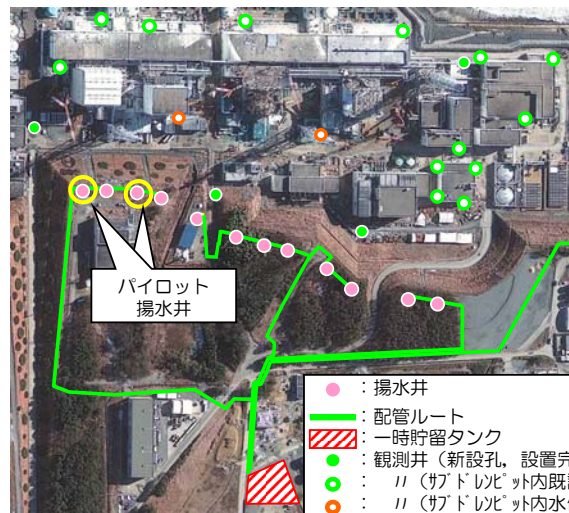
パイロット揚水井からポンプで汲み上げた地下水の流量と水位の変化を計測し、地盤の水の通しやすさを確認する。汲み上げた地下水はもう一方の揚水井に復水する。

■揚水試験の概略工期

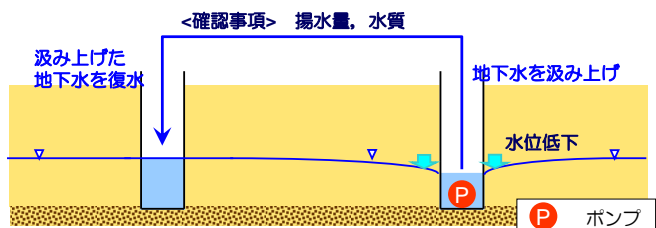
12月14日～（約3週間）

■揚水試験の実施状況

試験は順調に推移しており、データ蓄積を行っているところ。評価結果については取りまとめ次第ご報告する。



パイロット揚水井の位置



揚水試験のイメージ



※他の揚水井については年明けから順次製作する予定

東京電力

パイロット揚水井の水質確認試験について

パイロット揚水井の地下水を採取し、核種分析により水質確認試験を実施中。

- 実証試験の開始にあたり、パイロット揚水井の地下水についてセシウム-137の分析を行い、検出限界未満（検出限界値：0.1ベクレル/リットル以下）であることを確認した。
- 放水の許容目安値1ベクレル/リットル以下であることは満足しているが、今後、福島第一及び柏崎刈羽原子力発電所ならびに第三者機関にて、下表の通り、更なる詳細分析を実施予定。

	パイロット揚水井の地下水の水質確認内容
分析項目 (検出限界値)	セシウム-137 (0.01ベクレル/リットル) ストロンチウム-90 (0.01ベクレル/リットル) トリチウム (3ベクレル/リットル) 全アルファ (4ベクレル/リットル) 全ベータ (7ベクレル/リットル)
分析期間	平成24年12月下旬～平成25年2月の予定
評価方法	周辺の海域や河川の放射性セシウム濃度（1ベクレル/リットル以下）に比べて十分に低いことを確認する。また、敷地内の深井戸と同等レベルであることを確認する。

【参考】放射性セシウム濃度に関する規制値等の例

(飲料水)	セシウム-134 + セシウム137	≤ 10ベクレル/リットル
(魚介類)	セシウム-134 + セシウム137	≤ 100ベクレル/kg
(告示濃度)	セシウム-134 : 60ベクレル/リットル、セシウム-137 : 90ベクレル/リットル	
(環境省調査※)	セシウム-134,137の検出限界値	= 1ベクレル/リットル

※ 環境省が実施している、地下水質、及び公共用水域における放射性物質モニタリング